



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

## 人間同士の温かな関わりを

校長 許斐 真也

新年度が始まり、3か月が過ぎました。当初は新しい教室、仲間、先生…と慣れるのに時間がかかった子どもも多かったように見えたが、毎日の学校生活を通して次第にお互いのことが分かり

次第に打ち解けてきたように思います。特に1年生の保護者の皆様は、毎日我が子が元気に過ごしているか、友だちと仲良く過ごしているか、勉強が分かるか、などなど、ご心配も多かったのではないのでしょうか。まもなく7月、夏本番を迎えます。

さて、5月末日並びに6月中旬には4年生と6年生がそれぞれ上郷宿泊体験学習と日光修学旅行に行き参りました。該当学年の保護者の皆様には事前の準備、健康観察などご協力をいただきありがとうございました。家族以外の集団で寝食を含めあらゆる活動を共にすることで沢山の学びがありました。集団生活で大切なこと、仲間のよさなど、数えきれないほどです。また、6月上旬には本校で初めての取組となる「ペア遠足」を実施しました。保土ヶ谷公園まで近いという地の利を生かし、上学年一下学年という組み合わせで異年齢の子ども同士が一緒に活動することのよさを経験することができたのではないかと思います。その後の学校生活を見ていると、廊下でペアの相手と出会ったときに軽く挨拶を交わしたり、時には低学年の子がペアのお姉さんにかまってほしくてちょっかいを出したりする茶目っ気たっぷりの様子もありました。

慣れない環境の中では大人も含めて緊張が高いものですが、慣れたり、つながりができたりするとそれは安心感につながり、子どもはのびのびと自分らしく振舞うことができます。その場合、体内で「オキシトシン」というホルモンが分泌されるそうです。「オキシトシン」は俗に「幸せホルモン」とも言われ、分泌されると次の行動が起きてくるそうです。

- ・幸せな気分になる
- ・脳や心が癒され、ストレスが緩和する
- ・学習意欲と記憶力向上につながる
- ・他者への信頼の気持ちが増す など

「精神面・学習面・記憶力・他者への信頼面」へのよい効果があるというので、このホルモンをどうすれば分泌されるのか調べてみました。

- 家族団らん
  - 人と話をする
  - 思いやりの気持ちをもつ
  - 親切を心掛ける
  - 「ありがとうございます」「ごちそうさま」などの言葉を使う
- などの行動が分泌につながるそうです。つまり大切なのは

### 「他者との温かな関わり」と「お互いの支え合い」

であることは明らかであると思います。

ぜひこの「オキシトシン」の分泌を促し、いろいろな人とつながり関わりを豊かにし、お互いの支え合いを大切にしながら、一人ひとりの成長に結びつけていきたいと考えています。

引き続き本校の教育活動にご理解・ご協力をお願いするとともに、間もなくやってくる夏休みが皆様にとって充実したものになるよう、願っております。